

再処理工場のウラン試験時に発生が予想されるトラブル等とその対応 (No. 2 - 15)

件名	弁ハンドルの取付間違いによる回収酸溶液の漏えい							
事象の概要	<p>(1) 発生場所: 機器 分離建屋: アクティブ試薬設備</p> <p>(2) 発生の状況 分解点検後の確認運転中</p> <p>(3) 概要 弁の分解点検後に弁ハンドルの取付を間違えたことにより、導通した配管を閉止された配管と誤認識したため、他の移送用ポンプ(分解点検中)からの回収酸溶液が作業エリア内で漏えい</p> <p style="text-align: center;">*他の建屋も含め同種の作業においても、同様な事象の発生が予想される。</p>							
事象による影響	<p>(1) 工場外への影響 工場外への影響は生じない。 分離建屋塔槽類廃ガス処理設備および分離建屋換気設備が稼働している系統および室内での事象ならびにそれに伴う復旧作業であり、放射性物質の放出等の工場外への影響は生じない。</p> <p>(2) 安全性への影響 安全上の問題は生じない。 直ちに当該設備の弁を閉止するので、これ以上の事象の進展はなく、安全上の問題は生じない。</p> <p>(3) 作業員への影響 作業員への影響は生じない。 漏えいした液体の回収等の除染・復旧作業に当たっては、定められた放射線管理要領に従い、作業計画に沿って効率的に作業を進める事により、作業員への影響は生じない。</p> <p>(4) 他工程への影響 他工程への影響は生じない。 分解点検後の確認運転中に発生した事象であるため、他工程への影響は生じない。</p>							
対応の概要	<p>(1) 汚染区域を設定し、一時的に人の立ち入りを制限する。</p> <p>(2) 周辺の汚染状況を確認、把握した後、復旧作業計画(手順)などに従って、汚染除去を行う。</p> <p>(3) 定められた保守作業手順に従い、弁の据付不整合を修理する。</p>							
公表区分	翌平日に公表(ホームページへ掲載)							
対応区分	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">(a) 運転継続しながら復旧</td> <td rowspan="5" style="vertical-align: middle;"> 国際評価尺度 (INES) のレベル 日本原燃による評価: レベル0以下 </td> </tr> <tr> <td>(b) 運転系統を切り替えて復旧</td> </tr> <tr> <td>(c) 当該機器を停止して復旧</td> </tr> <tr> <td>(d) 当該設備を停止して復旧</td> </tr> <tr> <td>(e) 影響範囲の設備を停止</td> </tr> </table>	(a) 運転継続しながら復旧	国際評価尺度 (INES) のレベル 日本原燃による評価: レベル0以下	(b) 運転系統を切り替えて復旧	(c) 当該機器を停止して復旧	(d) 当該設備を停止して復旧	(e) 影響範囲の設備を停止	<p style="text-align: center;">(レベル2以下は工場外への影響はない) 放射性物質の外部放出 工場外への影響</p> <p style="text-align: center;">放射性物質による汚染、被ばく等 工場内への影響</p> <p style="text-align: center;">運転時制御用からの逸脱等 多重防護の劣化</p>
(a) 運転継続しながら復旧	国際評価尺度 (INES) のレベル 日本原燃による評価: レベル0以下							
(b) 運転系統を切り替えて復旧								
(c) 当該機器を停止して復旧								
(d) 当該設備を停止して復旧								
(e) 影響範囲の設備を停止								

本事象は当該機器停止時の保守作業中に発生したものであるため対応区分該当なし。

事象概要